

⑫ 公開特許公報(A)

平4-88472

⑤Int. Cl.⁵G 06 F 15/30
G 07 D 9/00

識別記号

3 3 0
4 6 1 A

庁内整理番号

6798-5L
8111-3E

⑬公開 平成4年(1992)3月23日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全5頁)

⑭発明の名称 データ記録装置

⑮特 願 平2-198191

⑯出 願 平2(1990)7月25日

⑰発 明 者 安 田 彰 志 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑱出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

明 細 書

1. 発明の名称

データ記録装置

2. 特許請求の範囲

(1) 所定の操作にて金銭の払い戻し若しくは預け入れ等を行う現金自動取扱い機において、前記現金自動取扱い機等に設けられ人を撮像し映像信号を出力する監視カメラと、監視カメラよりの映像信号をデジタルの画像データに変換し記憶する記憶部と、記憶部に記憶した画像データを前記現金自動取扱い機の確認キーの操作に基づいて読み出し、現金自動取扱い機に挿入された磁気カード若しくは通帳より読み取った口座番号等の顧客データと共に記録するデータ記録部とで構成したことを特徴とするデータ記録装置。

(2) 前記現金自動取扱い機の操作にて入力された暗証番号を挿入された磁気カードに記録の暗証番号と比較し不一致の場合、連続する不一致の回数が設定の回数を越えたとき、異常を告知するメッセージを前記記憶部より読み出した画像データと

共にデータ記録部に記録するように構成したことを特徴とする請求項(1)記載のデータ記録装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はデータ記録装置に係り、現金自動預け払い機等の利用者の画像を顧客番号等のデータと共に記録するものに関する。

〔従来の技術〕

現金自動支払い機(CD)若しくは現金自動預け払い機(ATM)等を設置した金融機関等の現金自動取扱い機のコーナーには、モニタリング若しくは不正使用者の監視のため監視カメラが設けられ、この監視カメラによる画像を画像記録装置にコマ落として記録し、必要に応じて後刻再生し、利用者等のチェックができるようになっている。このように、従来の自動機コーナーの監視カメラによる画像の記録はCD/ATMの使用状態に略関係なく行われるものであり、しかも、通常監視カメラは天井に近い上方に設置されるため、CD/ATM使用中の顔の記録が困難で、かつ、記録

された画像が誰のものかの確認には、この画像の記録とは別になされるCD/ATM利用記録との照合が必要である。このため、CD/ATM利用者の顔の正面像が記録でき、かつ、同時に利用者の顧客番号等が記録されるならば、顧客管理若しくは不正使用者の割り出しに効力を発揮できると考えられることから、このような装置の出現が望まれていた。

〔発明が解決しようとする課題〕

本発明はこのような点に鑑みてなされたもので、CD若しくはATMに監視カメラを装置し、CD若しくはATMの所定の操作にてこの監視カメラを作動させ、監視カメラよりの映像信号をデジタルの画像データに変換し、預け入れ若しくは引き出し金額等の確認のための「確認」キーの操作に基づいて、CD若しくはATMにより挿入された磁気カード若しくは通帳より読み出した口座番号等の顧客データと共にデータ記録部に記録する装置を提供するものである。

〔課題を解決するための手段〕

データを読み出し、CD若しくはATMに挿入された磁気カード若しくは通帳より読み取った口座番号等の顧客データと共にデータ記録部に記録する。

〔実施例〕

以下、図面に基ついて本発明によるデータ記録装置の実施例を詳細に説明する。

第1図は本発明によるデータ記録装置の一実施例の斜視図、第2図は同データ記録装置の一実施例の要部ブロック図である。第1図において、1は操作ボタンで、預け入れ若しくは払い戻し等の指定操作作用である。2は表示画面で、操作ボタン1の操作に応じ、次に行うべき操作の案内等を表示する。3は磁気カード挿入口で、現金引き出し等のため、口座番号等の顧客データおよび暗証番号のデータ等の記録された磁気カード等を挿入する。4は通帳挿入口で、磁気記録部を有する預貯金通帳を挿入する。5は置数キーで、暗証番号若しくは引き出し金額等の数字を入力する。6は確認キー等で、置数キー5による引き出し金額の入

本発明は上述の課題を解決するため、所定の操作にて金銭の払い戻し若しくは預け入れ等を行う現金自動取扱い機において、前記現金自動取扱い機等に設けられ人を撮像し映像信号を出力する監視カメラと、監視カメラよりの映像信号をデジタルの画像データに変換し記憶する記憶部と、記憶部に記憶した画像データを前記現金自動取扱い機の確認キーの操作に基づいて読み出し、現金自動取扱い機に挿入された磁気カード若しくは通帳より読み取った口座番号等の顧客データと共に記録するデータ記録部とで構成したデータ記録装置を提供するものである。

〔作用〕

以上のように構成したので、本発明によるデータ記録装置においては、CD若しくはATM等に設けられた監視カメラはCD若しくはATM等の使用者を撮像し、撮像による映像信号をデジタルの画像データに変換し記憶部に記憶する。そして、預け入れ金額若しくは引き出し金額の確認のため行う「確認」キーの操作にて前記記憶部より画像

力操作若しくは預け入れ金の投入等による表示画面2の表示金額が正しいとき操作する「確認」キー、若しくはこれを取り消す等の場合に操作する「取消」キー等を設けてある。7は監視カメラで、CD若しくはATMの操作者を撮像するためのもので、例えば、半透明ミラー等を介し内部に設置してある。8は現金出し入れ口で、現金の出入りに応じ自動的に扉が開閉する。

第2図の要部ブロック図において、11は監視カメラで、前記操作ボタン1の操作等にて起動し、CD/ATMの操作者を撮像し映像信号を出力する。12はA/D変換部で、監視カメラ11よりのアナログの映像信号をデジタルの画像データに変換する。13は記憶部で、A/D変換部12よりの画像データを記録する。14は「確認」操作検出部で、CD/ATMにて投入した預け入れ金額の確認若しくは置数キー5の操作による引き出し金額の確認のため「確認」キーが操作されたとき検出信号を出力する。15は時計・カレンダー部で、月日および時刻を刻みデータを出力する。16は顧客データ

読み取り部で、C D / A T M に挿入された磁気カード若しくは通帳より口座番号等の顧客データを読み取る。17はデータ記録部で、「確認」操作検出部14よりの信号により、記憶部13より読み出した画像データ、時計・カレンダー部15よりの月日・時刻のデータおよび顧客データ読み取り部16よりのデータとを、例えば、光ディスク等のデータ記録装置に記録する。18は制御部で、装置の各部を制御する。

第3図は前記データ記録部17に記録されるデータの一例で、図において、21は前記監視カメラ11の撮像に基づくデータの画像、22は「確認」キー6が操作された日時のデータ、23は顧客データ読み取り部16にて読み取った口座番号等の顧客データ、24は顧客データ23に対応して記憶されている顧客氏名のデータで、これらのデータを1枚の画像に合成したものである。

次に、本発明によるデータ記録装置の動作を第4図のフローチャートに基づき説明する。C D / A T M の利用者は、まず、操作ボタン1（複数）

場合（ST6:Yes）、次いで置数キー5の操作による引き出し金額を表示画面2で確認し、「確認」キー6を押す（ST7:Yes）。この「確認」キー6の操作を確認操作検出部14にて検出し、この検出信号に基づいて制御部18の出力する信号により、前記記憶部13に記憶された画像データを読み出し、この画像データと、顧客データ読み取り部16にて読み取った口座番号等のデータと、このときの時計・カレンダー部15よりの日時のデータ等とを、例えば、1枚の画像に合成し、データ記録部17により、例えば、光記録装置を用い、デジタルデータに基づくレーザー光照射等により光ディスク等に記録する（ST8）。なお、前記C D / A T M の操作が預け入れの場合、通常暗証番号の入力は行われないので、ST6は省略する。

また、前記ST6において、置数キー5により入力された暗証番号が磁気カードに記録されているデータと一致せず（ST6:No）、この不一致が装置に設定された所定の回数、例えば、3回連続した場合（ST9:Yes）、この操作は不正行為を伴うものと判

断し、前記記憶部13より読み出した画像データおよび時計・カレンダー部よりの日時のデータを異常操作のメッセージと共にデータ記録部17に記録する（ST10）。
なお、上記では、データ記録部17の記録は、現金の引き出し若しくは預け入れ等に伴う「確認」キーの操作に基づいてなされるものとしたが、残高照会若しくは通帳記入等の操作の場合にも記録を行うようにするには、前記「確認」操作検出部14に代えて操作ボタン1の残高照会若しくは通帳記入等の操作を検出する検出部を設け、この検出信号に基づいて画像データ等を記録するようにすればよい。

〔発明の効果〕

以上に説明したように、本発明によるデータ記録装置においては、現金自動取扱い機（C D 若しくはA T M 等）が操作されたとき、挿入された磁気カード若しくは通帳の口座番号等の顧客データ、操作者の顔等の画像データおよび操作日時のデータ等を自動的にデータ記録装置に記録するもので

ある。しかも、この画像データは、表示画面に表示された金額を確認しながら確認キーを操作したときのものであるから略正面の顔の画像であるから、従来のような監視カメラによる視野内の不特定者の間歇的な画像の記録と異なり、C D若しくはA T Mの操作者の顔等がはっきり記録されるので、不正使用等があった場合の追跡調査が行いやすく、また、めったに窓口に現れない顧客の顔も確認できる等、金融機関としての顧客管理に役立てることができるという利点を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

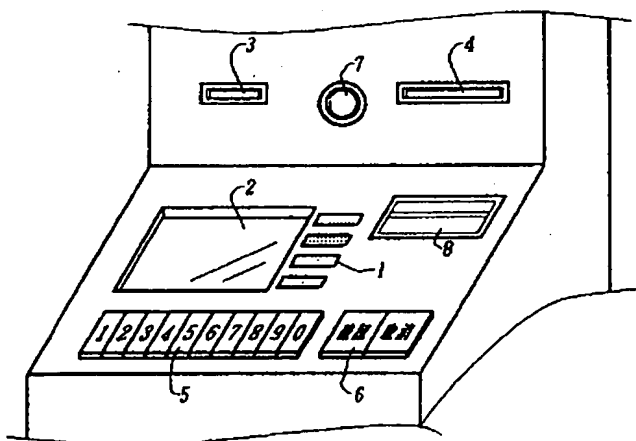
第1図は本発明によるデータ記録装置の一実施例の斜視図、第2図は同データ記録装置の一実施例の要部ブロック図、第3図はデータ記録部に記録する画像合成データの一例、第4図は同データ記録装置の動作を説明するためのフローチャートである。

図中、1は操作ボタン、2は表示画面、3は磁気カード挿入口、4は預貯金通帳挿入口、5は置数キー、6は確認等のキー、7および11は監視カ

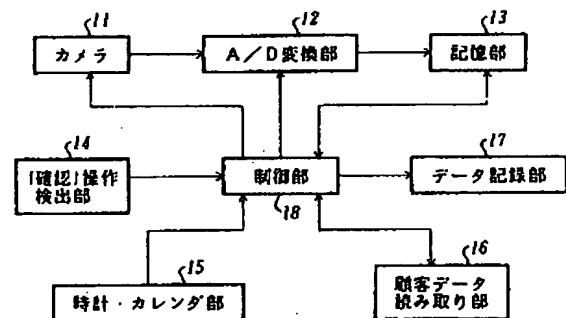
メラ、8は現金出し入れ口、12はA/D変換部、13は記憶部、14は「確認」操作検出部、15は時計・カレンダー部、16は顧客データ読み取り部、17はデータ記録部、18は制御部である。

特許出願人 株式会社富士通ゼネラル

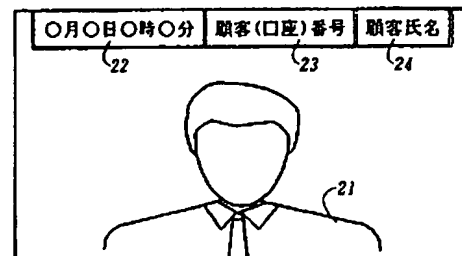
第1図



第2図



第3図



第4図

